

女性研究者研究活動支援事業（一般型）

(実施期間：平成 25～27 年度)

実施機関：群馬大学（総括責任者：平塚 浩士）

プロジェクトの概要

群馬大学では、女性が本来の能力を十分発揮して生き生きと働ける職場を目指して支援体制を整えつつあるが、十分に活用されておらず、女性研究者の比率も未だ低い。その改善を目的として、以下の取組を行う。

(1) 支援室の体制と具体的な活動内容（研究力向上のための取組みを含む）

既に設置した学長直属の「男女共同参画推進委員会」において、女性研究者の活動支援の方針の決定と実施結果の評価を行う。また、その下に「男女共同参画推進室」を置き、具体的な支援策の企画や提案、実施を行う。この体制の下、特に①サポート体制と環境の整備、②意識啓発と情報発信の2つに焦点を置き、活動する。

(2) 研究活動を支援する者の配置

「男女共同参画推進室」に専任のコーディネーター1名、各キャンパスの担当部署に事務補佐員各1名を配置する。

(1) 評価結果

総合評価	目標達成度	取組	取組の成果	実施体制	実施期間終了後の取組の継続性・発展性
A	a	a	s	a	a

総合評価：A（所期の計画と同等の取組が行われている）

(2) 評価コメント

3つのキャンパスが県内に分散する中、学長のリーダーシップの下、連携を密にして学内外のリソースを最大限に活かし、きめ細やかな両立支援を行い、女性研究者の在籍比率や上位職への登用、理工学部における女子学生比率や育児休業取得者数の増加等に係る目標を全て達成したことは、評価できる。特に、それまで女性教員が極めて少なかった理工学系の部局で女性教員数が倍増したこと、執行部への女性教員の登用が積極的に進められたことは、評価できる。

- ・ **目標達成度**：女性研究者在籍比率や上位職登用、自然科学系分野の女子学生比率、育児休業取得者数、「くるみんマーク」の取得、地域連携ネットワーク形成といった所期の目標を全て達成し、また、選定時のコメントにも全て対応したことは、評価できる。
- ・ **取組**：学内のコミュニティの場として「まゆだま広場」を創設するとともに、行政等の地域との連携を進め、学内外のリソースを積極的に活用して、保育や介護の支援を進め、研究とライフイベントとの両立を可能とする研究環境を整備したことは、評価できる。さらに、学生や若手女性研究者を対象としたメンター制度の構築、理工学府における教員の女性限定公募の実施等、多様な取組を実施したことは評価できる。

- **取組の成果**：機関初の教員女性限定公募の実施により、女性教員が特に少なかった理工学系の部局で女性教員数が倍増したこと、また、執行部への女性教員の登用が積極的に進められたことは高く評価できる。さらに、研究環境の整備により、女性研究者の研究業績が大きく向上したことも高く評価できる。
- **実施体制**：学長のリーダーシップの下、学長直属の組織として「男女共同参画推進委員会」と「男女共同参画推進室」で構成される推進体制を構築し、現場に柔軟に対応しつつ、県内の3つのキャンパスに分散する部局をとりまとめる機動性の高い推進体制として機能したことは、評価できる。
- **実施期間終了後の取組の継続性・発展性**：実施期間終了後のアクションプランとして「まゆだまプラン・プラス」を策定し、規模を縮小することなく推進体制を維持し、事業実施のための十分な自主経費を確保しており、今後の取組の継続性や発展性が期待できる。